

# 2025年3月期 中間期 決算短信補足資料

2024/11/6

株式会社ニッスイ



# 2025年3月期 中間期決算概況

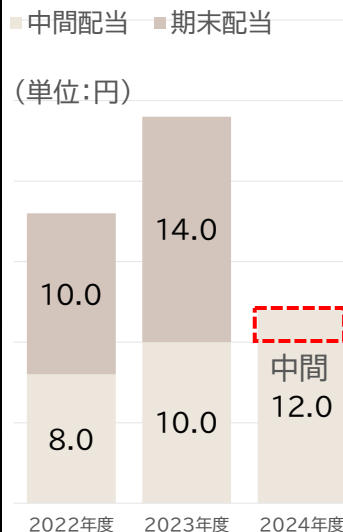


## 2025年3月期中間期 サマリー

- ・売上高は、食品が堅調なうえ為替の影響もあり増収。営業利益は、好調な食品が水産をカバーし過去最高益を更新。純利益は有価証券売却のタイミングもあり減益。
- ・計画に対して順調に進捗も、政治動向により為替を始め様々な変動が予想されるため、今後の事業環境を見極める。中間配当は2円増配の12円。

	2024年3月期 中間期	2025年3月期 中間期	対前年同期比	
			増減	増減率(%)
売上高	4,071 億円	4,406 億円	335 億円	8.2
営業利益	162 億円	172 億円	10 億円	6.1
経常利益	170 億円	169 億円	▲0 億円	▲0.2
中間 純利益	116 億円	104 億円	▲11 億円	▲10.2

2025年3月期 計画 (5月発表)	進捗率
	(%)
8,750 億円	50.4
325 億円	53.2
350 億円	48.5
240 億円	43.7



## 2025年3月期中間期 セグメント別概況

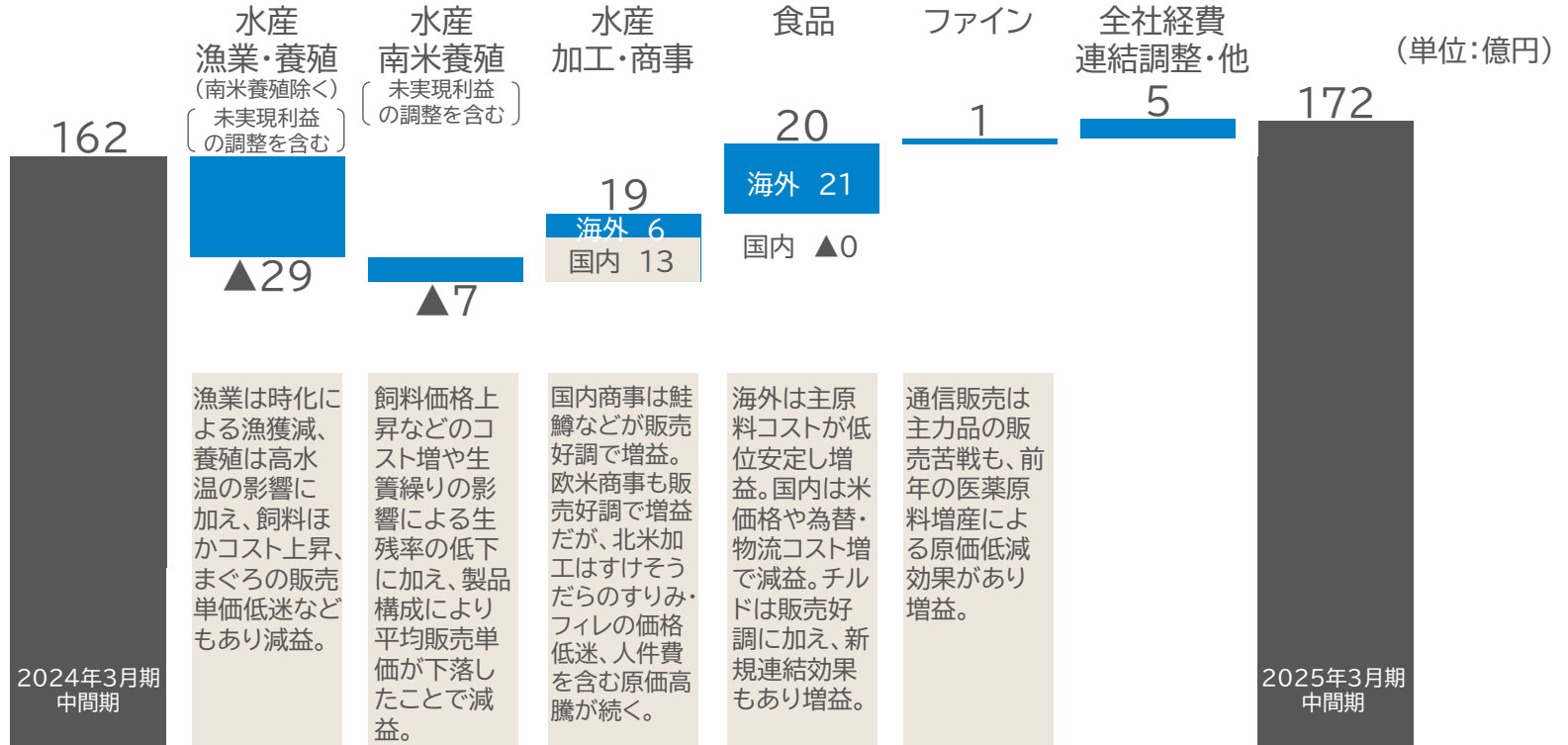
為替影響に加え、国内チルドの新規連結効果もあり増収。

(単位:億円)	2024年3月期 中間期	2025年3月期 中間期	対前年同期比増減	
			(億円)	率(%)
<b>売上高</b>	<b>4,071</b>	<b>4,406</b>	<b>335</b>	<b>8.2</b>
水産事業	1,632	1,755	123	7.6
食品事業	2,191	2,398	207	9.5
ファインケミカル事業	79	72	▲6	▲8.0
物流事業	77	82	4	5.8
その他	90	96	6	7.1
<b>営業利益</b>	<b>162</b>	<b>172</b>	<b>10</b>	<b>6.1</b>
水産事業	55	35	▲20	▲36.3
食品事業	141	163	21	15.3
ファインケミカル事業	▲0	1	1	—
物流事業	8	13	4	47.9
その他	3	6	2	69.2
全社経費	▲46	▲46	0	▲0.1
<b>経常利益</b>	<b>170</b>	<b>169</b>	<b>▲0</b>	<b>▲0.2</b>
親会社株主に帰属する中間純利益	<b>116</b>	<b>104</b>	<b>▲11</b>	<b>▲10.2</b>

<売上高為替影響額>  
合計 +約237億円

# 2025年3月期中間期 主な営業利益増減要因(前年同期比)

水産は漁業・養殖が不調なうえ、北米加工の低迷が続き減益。  
 食品は海外での販売拡大に加え白身魚原料の低位安定もあり増益、国内チルドの好調も寄与。



# 2025年3月期中間期 連結貸借対照表(前期末比)

運転資本と欧米の工場投資により総資産が増加。

(単位:億円)

( )内の数字は前期末比増減			流動負債		
<b>流動資産</b>	<b>3,416</b>	<b>(+164)</b>	<b>2,361</b>	<b>(+233)</b>	
現金及び預金	158	(▲8)	支払手形及び買掛金	589	(+22)
受取手形及び売掛金	1,090	(+7)	短期借入金	1,272	(+306)
棚卸資産(在庫)	1,984	(+144)	未払費用	280	(▲55)
<b>固定資産</b>	<b>2,946</b>	<b>(+134)</b>	<b>固定負債</b>	<b>1,208</b>	<b>(▲153)</b>
有形固定資産	1,755	(+92)	長期借入金	928	(▲168)
無形固定資産	177	(+3)	<b>純資産</b>	<b>2,793</b>	<b>(+220)</b>
投資その他の資産	1,014	(+38)	自己資本	2,704	(+212)
<b>総資産</b>	<b>6,363</b>	<b>(+299)</b>	自己資本比率		
			'24/3 41.1% ⇒ '24/9 42.5%		

## 2025年3月期中間期 連結キャッシュフロー(前年同期比)

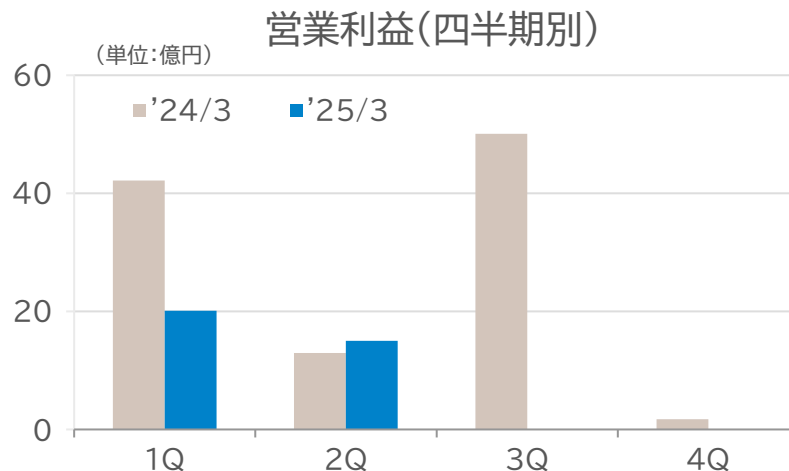
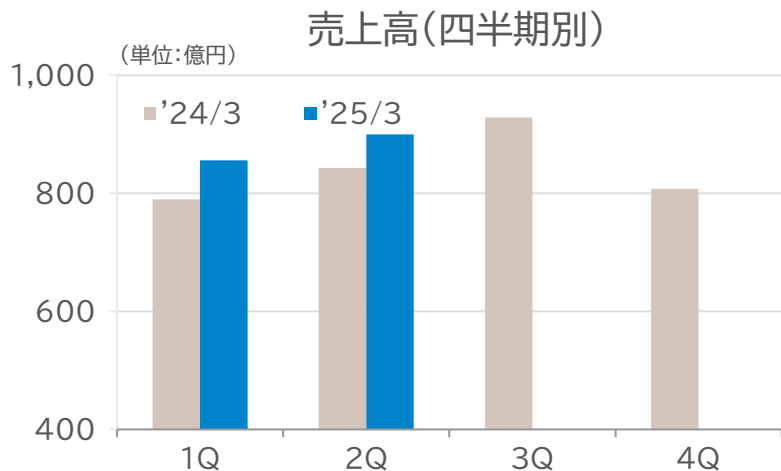
法人税等の支払額が増加し、昨年比で営業CFは若干減少。

(単位: 億円)	2024年3月期 第2四半期	2025年3月期 第2四半期	増減
・税金等調整前中間純利益	174	168	▲ 5
・減価償却費(のれん償却含む)	106	123	17
・運転資本	▲ 123	▲ 70	53
・法人税等の支払額	▲ 15	▲ 77	▲ 62
・その他	29	▲ 10	▲ 39
<b>営業活動によるCF</b>	<b>171</b>	<b>134</b>	<b>▲ 37</b>
・設備投資額(固定資産取得額)	▲ 147	▲ 146	1
・その他	▲ 42	▲ 16	25
<b>投資活動によるCF</b>	<b>▲ 190</b>	<b>▲ 163</b>	<b>27</b>
・短期借入金の増減額	92	107	14
・長期借入金の増減額	▲ 67	▲ 28	38
・その他	▲ 20	▲ 54	▲ 33
<b>財務活動によるCF</b>	<b>4</b>	<b>23</b>	<b>18</b>
<b>現金及び現金同等物の期末残高</b>	<b>141</b>	<b>200</b>	

## 2025年3月期中間期 水産事業 売上高・営業利益(前年同期比)

為替の影響に加え、国内で鮭鱒などの販売が好調に推移し増収。

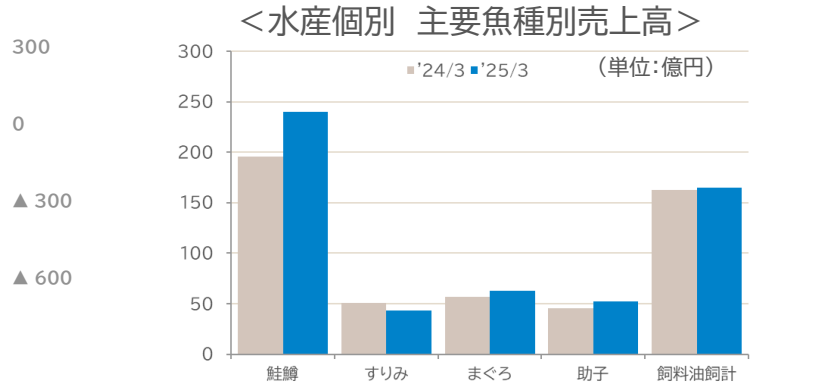
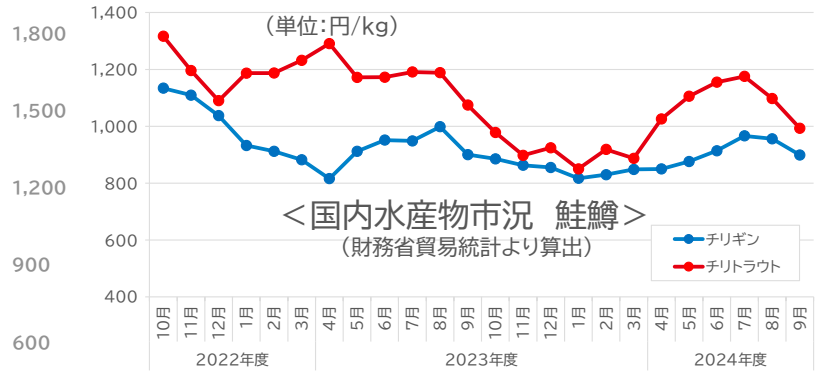
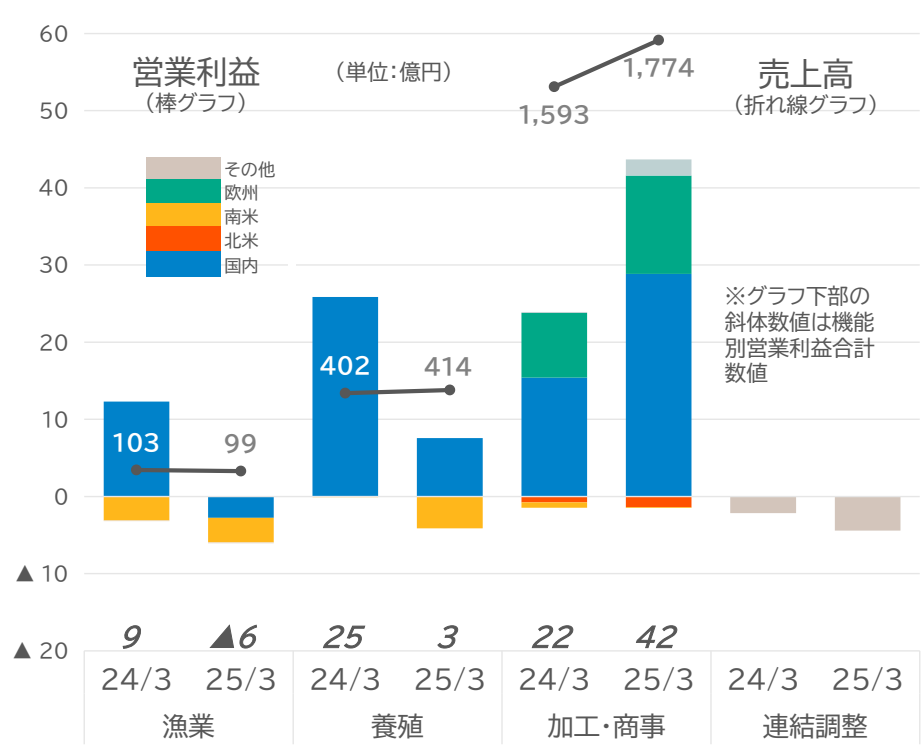
(単位:億円)	2024年3月期 中間期	2025年3月期 中間期	対前年同期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	1,632	1,755	123	7.6
営業利益	55	35	▲20	▲36.3





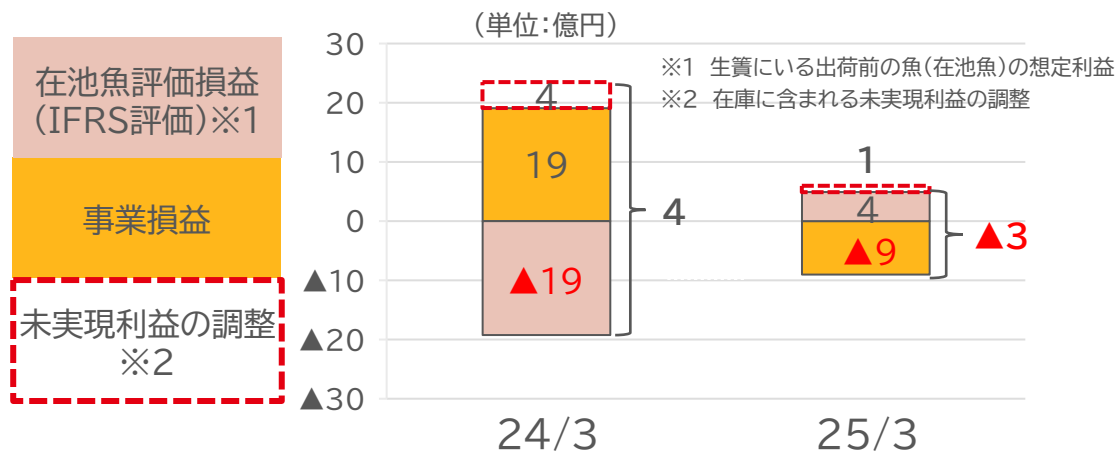
# 2025年3月期中間期 水産事業 売上高・営業利益(前年同期比)

商事は鮭鱒などの販売好調で増益。漁業は時化による漁獲減、養殖は高水温の影響に加え、飼料ほかコスト上昇、まぐろの販売単価低迷などもあり減益。



# 2025年3月期中間期 南米鮭鱒養殖について

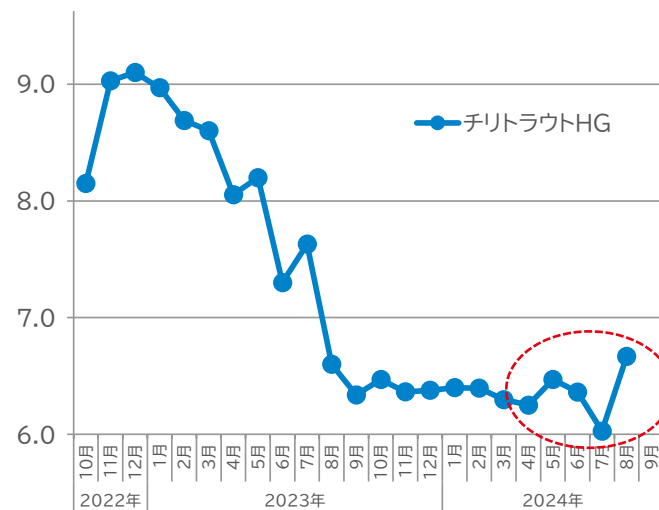
在池魚評価は販売単価の回復遅れや飼料価格高騰などにより期末はマイナス(▲17)も、期首戻入額とネットでプラス(+4)に転じた。



<在池魚評価損益 内訳>

(単位:億円)	24/3 2Q	25/3 2Q
期首戻入額	▲7	22
期末評価損益	▲12	▲17
在池魚評価損益	▲19	4

<チリ産トラウトHG相場推移>  
(単位:USD/kg)

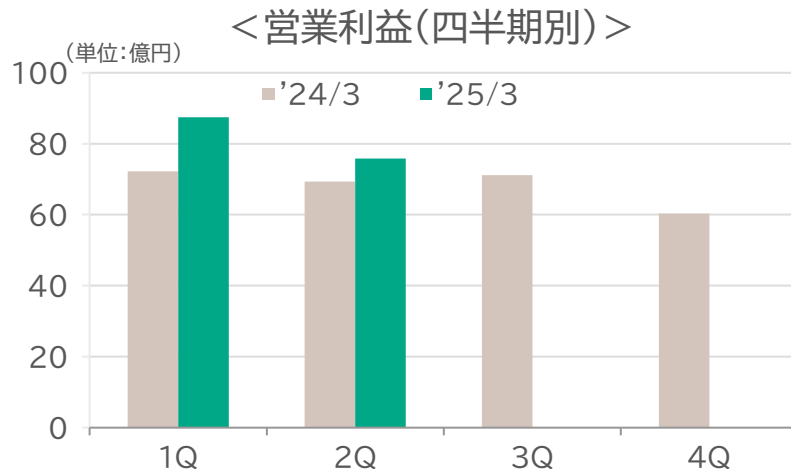
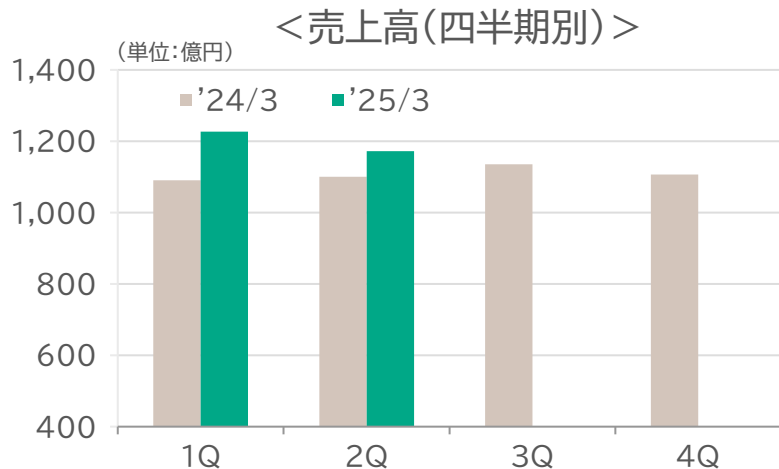


(出典:InfoTrade) (HG:頭と内臓を除去した状態の魚)

## 2025年3月期中間期 食品事業 売上高・営業利益(前年同期比)

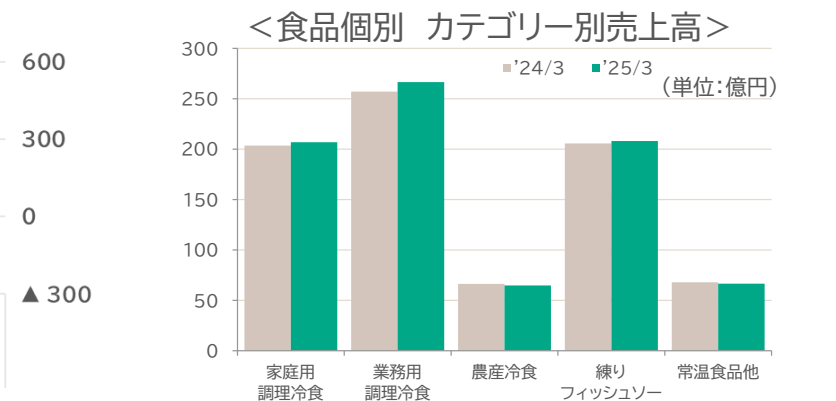
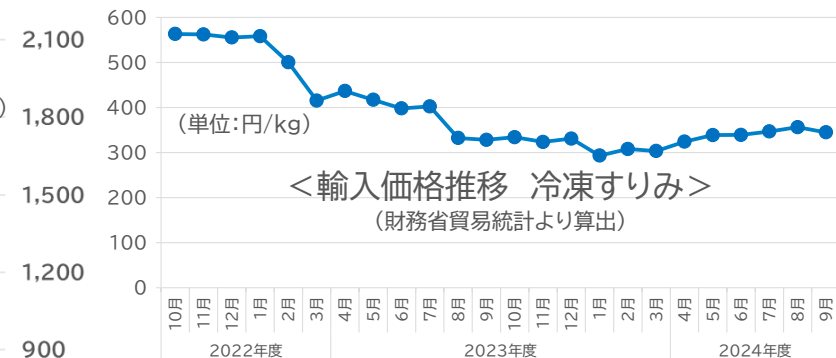
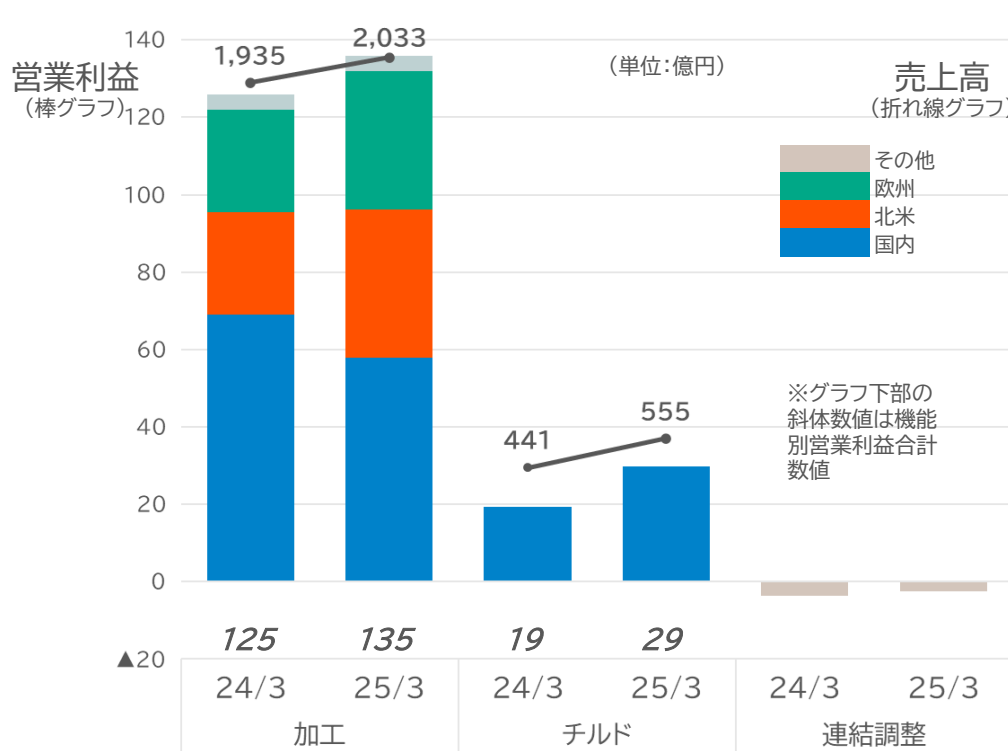
為替の影響に加え、国内チルドの新規連結効果により増収。

(単位:億円)	2024年3月期 中間期	2025年3月期 中間期	対前年同期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	2,191	2,398	207	9.5
営業利益	141	163	21	15.3



# 2025年3月期中間期 食品事業 売上高・営業利益(前年同期比)

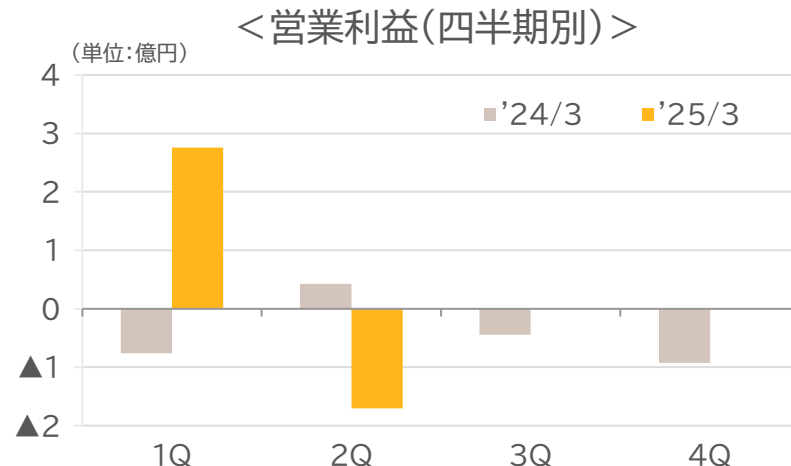
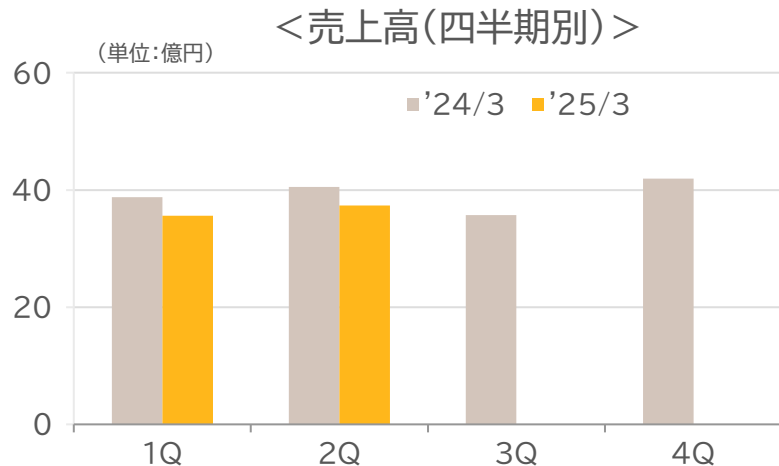
海外は販売拡大に加え原料価格低下効果により増益。国内は米の原料価格や円安、物流費上昇の影響を受け減益。チルドはCVSの施策が好調なうえ新規連結効果もあり増益。



## 2025年3月期中間期 ファインケミカル事業 売上高・営業利益(前年同期比)

通信販売は主力品の販売が苦戦したが、前年の医薬原料増産による原価低減効果があり増益。

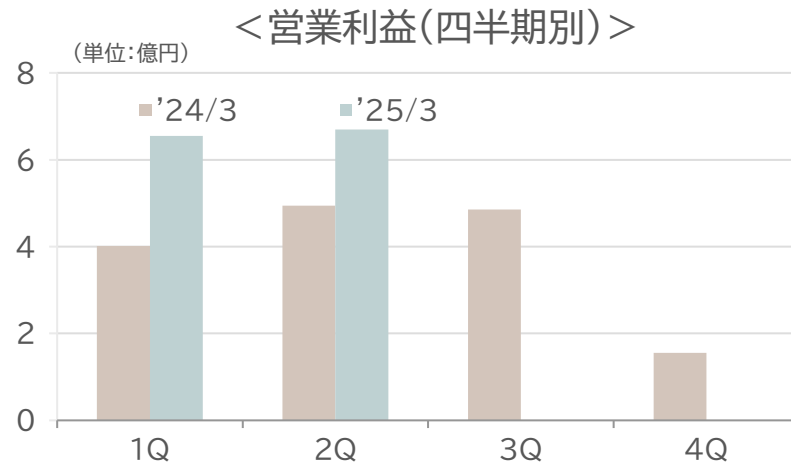
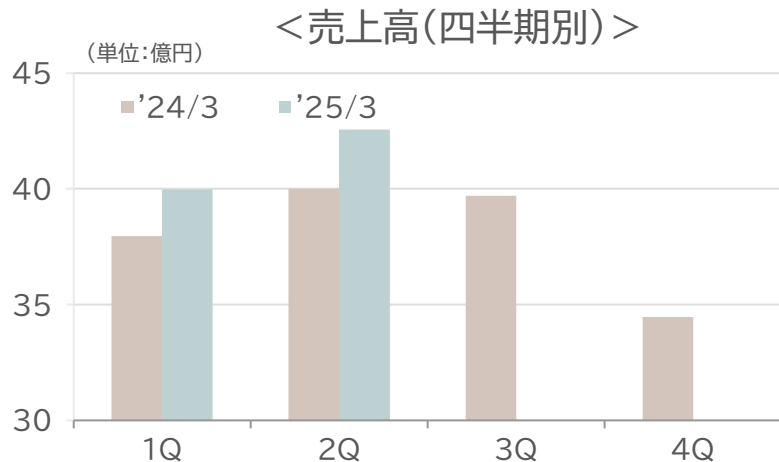
(単位:億円)	2024年3月期中間期	2025年3月期中間期	対前年同期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	79	72	▲6	▲8.0
営業利益	▲0	1	1	—



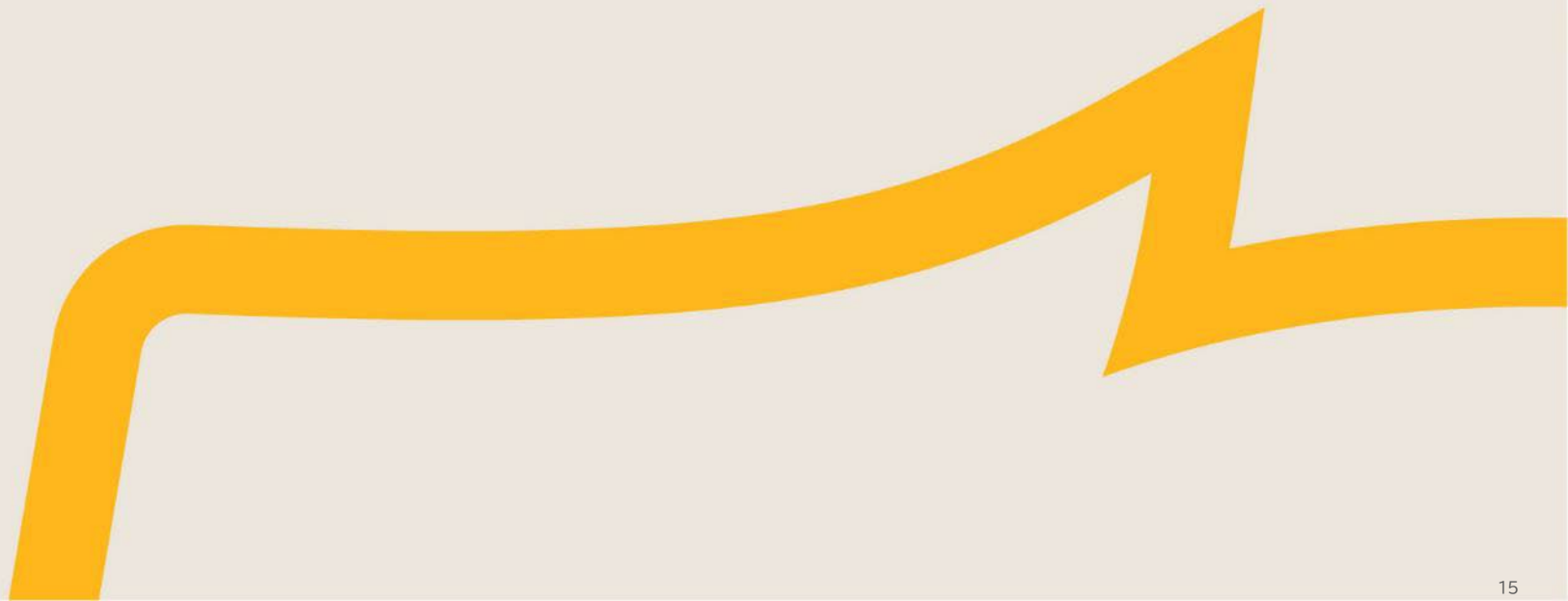
## 2025年3月期中間期 物流事業 売上高・営業利益(前年同期比)

昨年度の新物流センター開業により取扱い数量が増加したうえ、価格改定効果もあり増収増益。

(単位:億円)	2024年3月期 中間期	2025年3月期 中間期	対前年同期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	77	82	4	5.8
営業利益	8	13	4	47.9



## 今後の取り組み



## 今後の取り組み：水産事業

養殖オペレーション改善・高付加価値化に加えて、在庫マネジメントの徹底により収益性の向上を図る。

(単位:億円)	2025年3月期 中間期	2025年3月期 計画	進捗率
			(%)
売上高	1,755	3,511	50.0
営業利益	35	144	24.3

### ▶ 下期以降のポイント

#### <国内>

- 最需要期である第3四半期の販売を最大化し、在庫を適正化するとともに収益性を改善する。
- 養殖事業は今期増産予定の短期養殖本マグロの販売を拡大し、収益向上を実現する。
- 加工・商事は、食材化商品などの高付加価値品を拡大する。

#### <海外>

- (欧州)獲得した鮮魚加工ビジネスを活用した事業拡大を進める。
- (南米)魚病リスクの低減と養殖成績の向上を図りつつ、高付加価値品の販売を拡大することで収益力を向上させる。
- (北米)更なるすけそうだら資源獲得の取り組み強化とフィレ生産比率向上、人員最適化などコスト抑制により収益性改善を目指す。



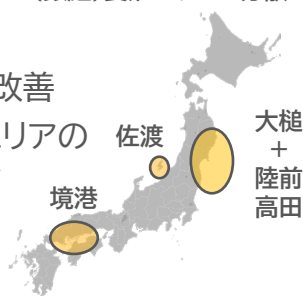
## 気候変動やコスト上昇などの環境変化に対応でき、高付加価値化を実現するメーカーに。

### ▶ 養殖

#### 一 養殖エリアの分散やオペレーション改善

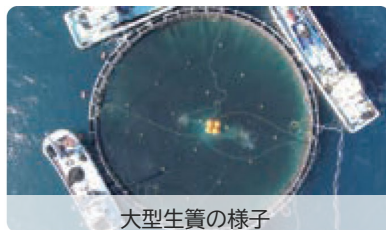
様々な環境変化に対応して、養殖エリアの分散によるリスクヘッジや事業統合によるオペレーション改善を図る。

(銀鮭)養殖エリアの分散



#### 一 生産性の向上・事業規模の拡大

ブリは養殖技術の深化により生産性向上、2030年に15,000トンの水揚げを目指す。銀鮭は優良な漁場を更に獲得し、2030年に9,000トンの水揚げを目指す。



大型生簀の様子



岩手県・陸前高田市

(ブリ)同じ育成期間：当社の人工種苗と他社の天然種苗の成育の差



#### 一 養殖の高度化

- ・選抜育種によるブリ養殖期間の短縮
- ・短期養殖本マグロの販売拡大
- 養殖期間を短縮し、CCCを改善。

(マグロ)



### ▶ 加工・商事

#### 一 高付加価値化の推進

高付加価値の煮魚・焼魚・生食などの加工度を高める食材化を進め、高収益化を図る。



寿司ネタや刺身スライスを加工

## 今後の取り組み：水産事業(海外)

販売チャネル拡大・高付加価値化を進め、市況の影響を受けにくい事業構造へ。

### ▶ 欧州加工商事

#### 一 販売チャネル拡大・高付加価値化

欧州の鮮魚調達・加工機能を持つ会社を加え、地場の魚のみならず、北海道産ホタテや差別化したブリなど、高付加価値の日本産水産物を欧州で拡大。

鮮魚調達・加工

Maxima  
SEAFOOD



ホタテ・ブリ  
などを輸出

冷凍調達・販売

NORDIC SEAFOOD®



### ▶ 南米養殖

#### 一 健康管理によるリスク軽減

淡水養殖場における種苗の健康管理により、魚病・成育不良リスクを軽減。

#### 一 飼料配合の最適化

飼料サイロの増設により複数の飼料を組み合わせることが可能になり、飼料配合の最適化でコストダウンを図る。

#### 一 高付加価値化の推進

フィレ自動化ラインの稼働増と生食ラインの生産性向上により、高付加価値商品の割合を高め、収益力を向上。



販売数量の底上げなど、環境の変化に対応していく。

(単位:億円)	2025年3月期 中間期	2025年3月期 計画	進捗率
			(%)
売上高	2,398	4,705	51.0
営業利益	163	255	64.0

### ▶ 下期以降のポイント

#### <国内>

- 即食/簡便需要に応えるおにぎりや麺類、健康に寄与する速筋タンパクなど当社の強みが活かせる商品展開や販売促進強化により拡大する。
- 単品別収支管理を徹底し、不採算アイテムの削減を継続して実施する。

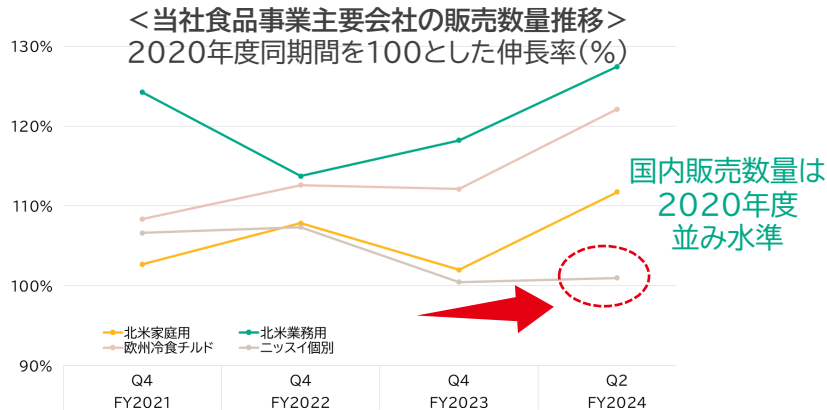
#### <海外>

- (北米)家庭用はエビ商品や健康志向商品「Air Fried」の販売強化に加え、EC・会員制店舗など新規チャネル向け商品を拡充。業務用は白身魚商品や、米系レストラン向けシューマイなどの販売を拡大。
- (欧州)フランス周辺国へのチルド白身魚フライのエリア拡大に加え、鮮魚売場と隣接するチルドのタパスカテゴリー強化。イギリスでは、国内シェアを伸ばし着実に成長していく。

## 今後の取り組み： 食品事業(日本)

販売数量をより増やすための販促強化とともに、チルドで培ったノウハウを活用した商品を展開していく。

▶ 国内は、CMや需要喚起策を実行し、販売数量を改善。



CMやSNS、キャンペーン等を活用し、注力商品を拡販



▶ 消費者ニーズへの対応や、チルド・冷凍食品の融合により新カテゴリーを創造。

簡便・即食	健康
<p>1食分で手軽に1/3日分の野菜がとれる商品</p>	<p>ワン手で食べられるバータイプの「速筋タンパク」商品</p>

ワンプレート冷凍弁当	フローズンチルド惣菜
<p>レンジ調理で簡単に喫食できる冷凍弁当</p>	<p>保存期間の長期化とおいしさを実現する商品</p>

## 今後の取り組み：食品事業(海外)

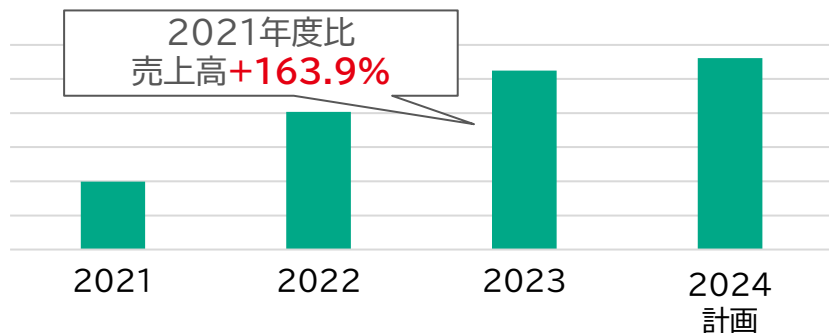
フランス起点のチルド水産フライに加え、イギリスにおいて冷凍白身魚フライを拡大。  
北米では、ECや会員制店舗といった新たな販売チャネルを拡充中。

### ▶ イギリスでのシェア拡大

- 家庭用・業務用の冷凍フィッシュアンドチップスを中心に事業を拡大。
- 日本向けに輸出も開始



<イギリス食品事業の売上高推移>



### ▶ (欧州)チルドの販売エリア・商品カテゴリ拡大

- 鮮魚売場と隣接するチルド水産フライの拡大に加え、チルドタパスも強化。



### ▶ (北米)販売チャネル拡充(EC・会員制店舗)



## 今後の取り組み：ファインケミカル事業

欧州向け医薬品原料の販売実現に向けて、生産・販売の両面で体制を整える。

	2025年3月期 中間期	2025年3月期 計画	進捗率
			(%)
売上高	72	165	44.2
営業利益	1	3	35.2

### ▶ 下期以降のポイント

#### <医薬原料>

- 一 欧州医薬品庁から原料の申請承認を得たことを受け、年度内の販売に目途。

#### <通販・物販>

- 一通販は広告宣伝の見直し、物販はドラッグストアや量販店向けの販売を強化する。

#### <機能性原料>

- 一 EPA/DHAを加えた製品(グミやゼリーなど)の海外展開を検討中。原料販売だけでなく、EPA/DHAを加えた製品の販売比率を増やし、売上構成を変えていく。

海外展開を検討



EPA・DHA  
グミ

世界で医薬品向け高純度EPA原料を拡大していく。



# 2024年度ブランディング

コーポレートブランディングを通じニッスイの価値を理解、共感してもらう。  
2024年度は、顧客認知度が高い「黒瀬ぶり」を中心に発信していく。

- ▶ 完全養殖 黒瀬ぶり「世界を駆けめぐる篇」  
想いや取り組みを伝えるCM



- ▶ 販売連動:ニッスイパッケージ商品を販売し、黒瀬ぶり購買の場でニッスイを想起



- ▶ 「とことん研究篇」CM



- ▶ 駅ポスター:黒瀬ぶり×ニッスイ (GOOD FOODS for YOU!)





取り扱い水産物の資源状態調査(第3回)を実施。 事業の更なる持続可能性向上を目指す。

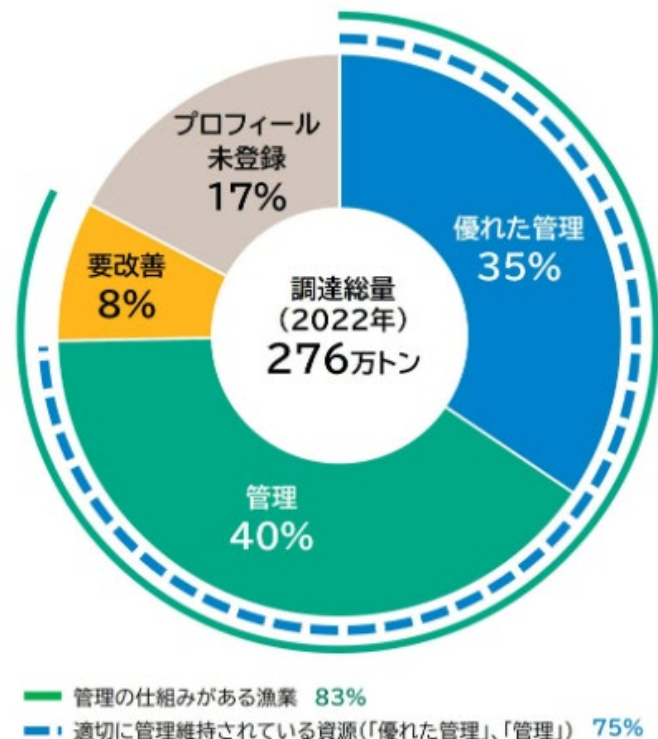
## ▶ 取り扱い水産物の資源状態調査(第3回)結果


- 2022年にグループ全体で取り扱った水産物のうち、83%が管理の仕組みのある漁業から調達したもので、75%が適切に維持・管理できている資源。
- 適切に維持管理された漁業によるもの(75%)は、前回の71%から4%増加。

### 今後の対応策

- ・資源状態の把握が困難な魚種に対する対応
- ・サプライヤーとの協働によるトレーサビリティの確保
- ・人権侵害リスクを把握するための評価方法の検討

**2030年目標「持続可能な調達比率100%」に向け、持続可能な水産物調達の体制を構築し、事業の更なる持続可能性向上を図る。**





変化への対応力を上げ、  
長期ビジョン

「人にも地球にもやさしい食を世界に  
お届けするリーディングカンパニー  
(Good Foods 2030)」  
達成に向けて取り組んでまいります。

## 見通しに関する注意事項

本資料に記載されている、当期ならびに将来の業績に関する見通し等は、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものであり、これらの達成を保証するものではありません。

実際の業績は、様々な要因により、見通し等とは大きく異なることがあります。その要因としては、市場の経済状況および製品の需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種制度や法律の改定などが含まれます。

従いまして、本資料の利用は、利用者の判断によって行いますようお願い致します。本資料の利用によって生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではないことをご認識頂きますようお願い申し上げます。



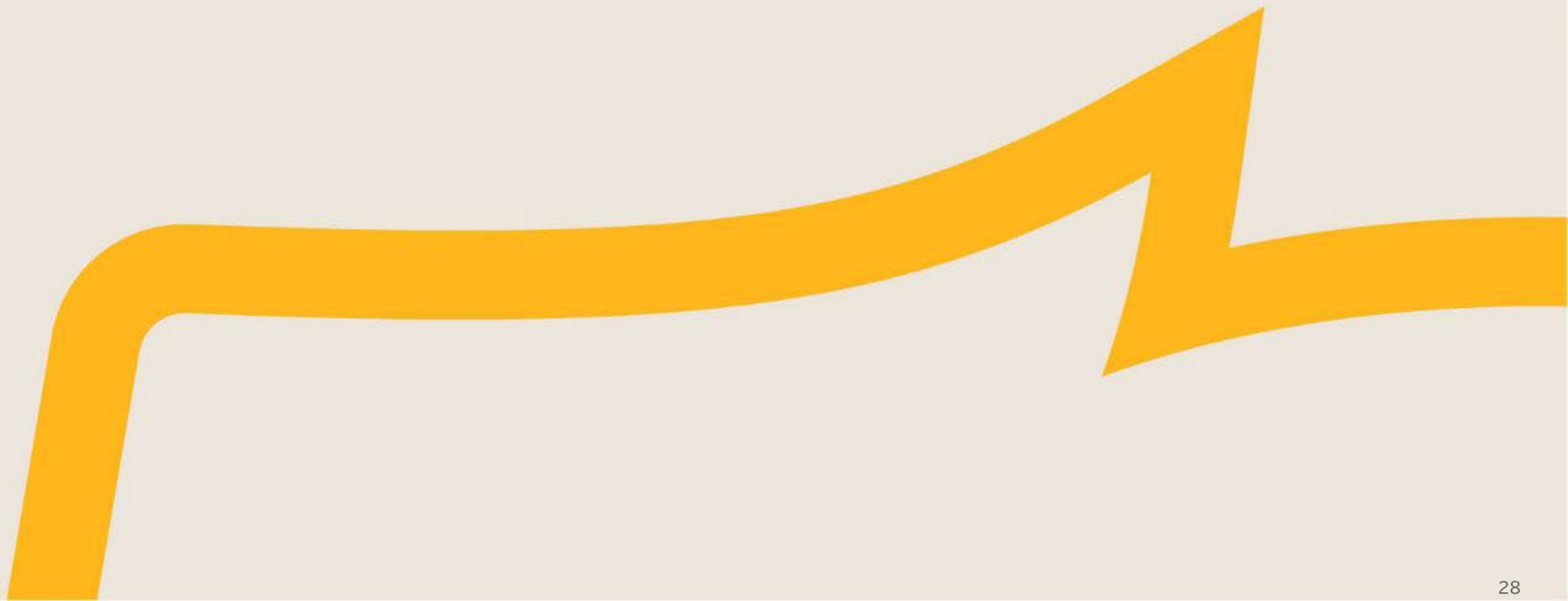
**まだ見ぬ、食の力を。**

株式会社ニッスイ  
証券コード：1332

お問合せ先：経営企画IR部IR課  
03-6206-7037

<https://www.nissui.co.jp/ir/index.html>

## 参考資料



## 2025年3月期中間期 連結損益計算書(前年同期比)

(単位:億円)	2024年3月期 第2四半期	2025年3月期 第2四半期	増減	主な増減要因
売上高	<b>4,071</b>	<b>4,406</b>	<b>335</b>	
売上総利益	<b>636</b>	<b>707</b>	<b>70</b>	
販売費・一般管理費	474	534	60	
営業利益	<b>162</b>	<b>172</b>	<b>10</b>	
営業外収益	22	15	▲6	
営業外費用	14	18	3	
経常利益	<b>170</b>	<b>169</b>	<b>▲0</b>	
特別利益	18	4	▲13	投資有価証券売却益▲16
特別損失	13	5	▲8	事故関連損失▲10
税金等調整前中間純利益	<b>174</b>	<b>168</b>	<b>▲5</b>	
法人税等	65	53	▲11	
法人税等調整額	▲10	0	11	
中間純利益	<b>119</b>	<b>114</b>	<b>▲5</b>	
非支配株主に帰属する 中間純利益	2	9	6	
親会社株主に帰属する 中間純利益	<b>116</b>	<b>104</b>	<b>▲11</b>	

## 2025年3月期中間期 為替換算による影響額(売上高)、為替レート（連結調整前）

主要在外会社の 為替換算レート	2024年3月期 中間期		2025年3月期 中間期		前年同期比増減		増減内訳(億円)	
	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	為替影響
USD(百万ドル)	779	1,062	771	1,187	▲7	125	▲10	135
EUR(百万ユーロ)	229	339	220	367	▲8	28	▲12	40
DKK(百万クローネ)	1,688	335	1,667	372	▲20	37	▲3	40
その他通貨	—	175	—	195	—	20	0	19
計		1,911		2,123		211	▲25	237

### 【参考:為替レート】

※右表の為替レートは  
第2四半期の平均

	2024年3月期 第2四半期	2025年3月期 第2四半期	変動率
米ドル(USD)	139.63 円	158.24 円	13.3%
ユーロ(EUR)	151.89 円	170.08 円	12.0%
デンマーククローネ (DKK)	20.39 円	22.80 円	11.8%

## 2025年3月期中間期 セグメントマトリックス 売上高(前年同期比)

(単位:億円)

	日本	北米	南米	ヨーロッパ	アジア オセアニア	仮計	連結調整	連結 計
水産事業	1,237 (56)	377 (44)	207 (29)	429 (52)	36 (7)	<b>2,289 (190)</b>	▲533 (▲66)	<b>1,755 (123)</b>
	1,180	332	178	377	29	<b>2,098</b>	▲466	<b>1,632</b>
食品事業	1,518 (132)	600 (50)		418 (31)	51 (▲4)	<b>2,588 (211)</b>	▲190 (▲3)	<b>2,398 (207)</b>
	1,385	550		386	55	<b>2,377</b>	▲186	<b>2,191</b>
ファイン 事業	87 (▲3)				— (▲0)	<b>87 (▲3)</b>	▲14 (▲2)	<b>72 (▲6)</b>
	90				0	<b>90</b>	▲11	<b>79</b>
物流事業	160 (15)					<b>160 (15)</b>	▲77 (▲10)	<b>82 (4)</b>
	145					<b>145</b>	▲67	<b>77</b>
その他 事業	113 (▲4)				0 (0)	<b>114 (▲4)</b>	▲18 (11)	<b>96 (6)</b>
	118				0	<b>119</b>	▲29	<b>90</b>
仮計	<b>3,116 (196)</b>	<b>978 (95)</b>	<b>207 (29)</b>	<b>848 (83)</b>	<b>88 (2)</b>	<b>5,240 (407)</b>		
	<b>2,920</b>	<b>883</b>	<b>178</b>	<b>764</b>	<b>86</b>	<b>4,832</b>		
連結調整	▲502 (▲12)	▲117 (▲24)	▲144 (▲38)	▲8 (3)	▲61 (▲0)		▲833 (▲72)	
	▲489	▲92	▲105	▲12	▲60		▲761	
連結 計	<b>2,614 (183)</b>	<b>861 (71)</b>	<b>63 (▲9)</b>	<b>839 (87)</b>	<b>27 (2)</b>			<b>4,406 (335)</b>
	<b>2,430</b>	<b>790</b>	<b>72</b>	<b>752</b>	<b>25</b>			<b>4,071</b>

※上段は当期累計実績、下段は前年同期累計実績、括弧内は増減を表す。

※連結調整にはグループ間取引による売上高消去を含む。

# 2025年3月期中間期 セグメントマトリックス 営業利益(前年同期比)

(単位:億円)

	日本	北米	南米	ヨーロッパ	アジア オセアニア	全社経費	仮計	連結調整	連結 計	営業利益率(%)
水産事業	33 (▲19)	▲1 (▲0)	▲7 (▲3)	12 (4)	1 (1)		39 (▲17)	▲4 (▲2)	35 (▲20)	2.0 (▲1.4)
	53	▲0	▲3	8	0		57	▲2	55	3.4
食品事業	87 (▲0)	38 (11)		35 (9)	4 (0)		165 (20)	▲2 (1)	163 (21)	6.8 (0.3)
	88	26		26	4		145	▲3	141	6.5
ファイン 事業	1 (1)				— (0)		1 (1)	▲0 (0)	1 (1)	1.4 (1.9)
	0				▲0		0	▲0	▲0	▲0.4
物流事業	13 (4)						13 (4)	0 (▲0)	13 (4)	16.0 (4.6)
	8						8	0	8	11.5
その他 事業	4 (1)				0 (▲0)		4 (1)	1 (0)	6 (2)	6.5 (2.4)
	3				0		3	0	3	4.1
全社経費						▲46 (▲0)	▲46 (▲0)	0 (0)	▲46 (0)	
						▲46	▲46	0	▲46	
仮計	140 (▲13)	36 (11)	▲7 (▲3)	48 (13)	6 (2)	▲46 (▲0)	177 (9)			
	154	25	▲3	34	3	▲46	168			
連結調整	0 (7)	▲2 (▲1)	1 (▲3)	▲3 (▲0)	▲0 (▲1)	0 (▲0)		▲5 (0)		
	▲7	▲0	4	▲2	0	0		▲5		
連結 計	141 (▲5)	34 (9)	▲6 (▲6)	44 (12)	5 (0)	▲46 (▲0)			172 (10)	3.9 (▲0.1)
	147	24	0	31	4	▲46			162	4.0

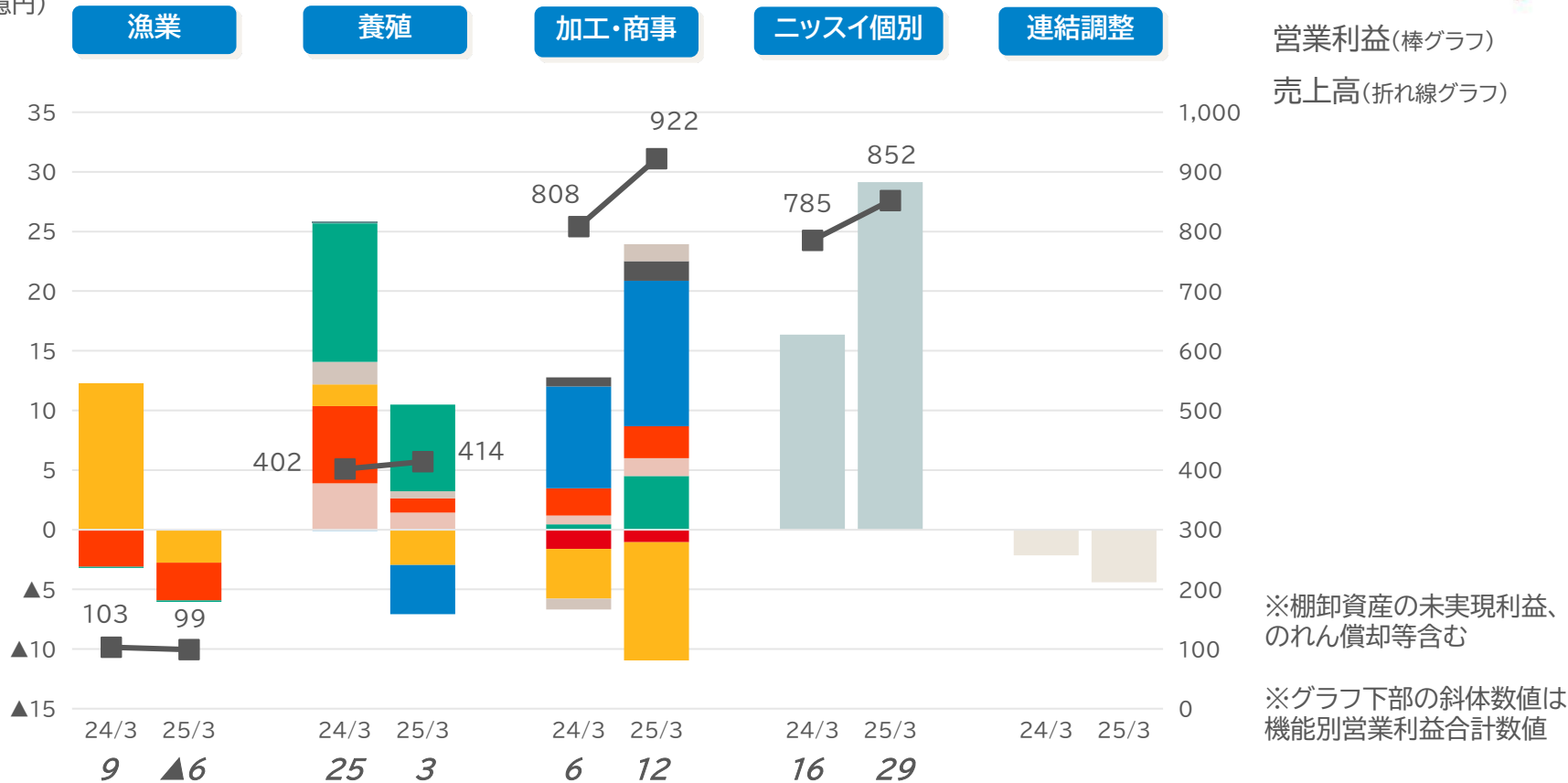
※上段は当期累計実績、下段は前年同期累計実績、括弧内は増減を表す。

※連結調整にはのれん償却、棚卸資産の未実現利益消去等を含む。



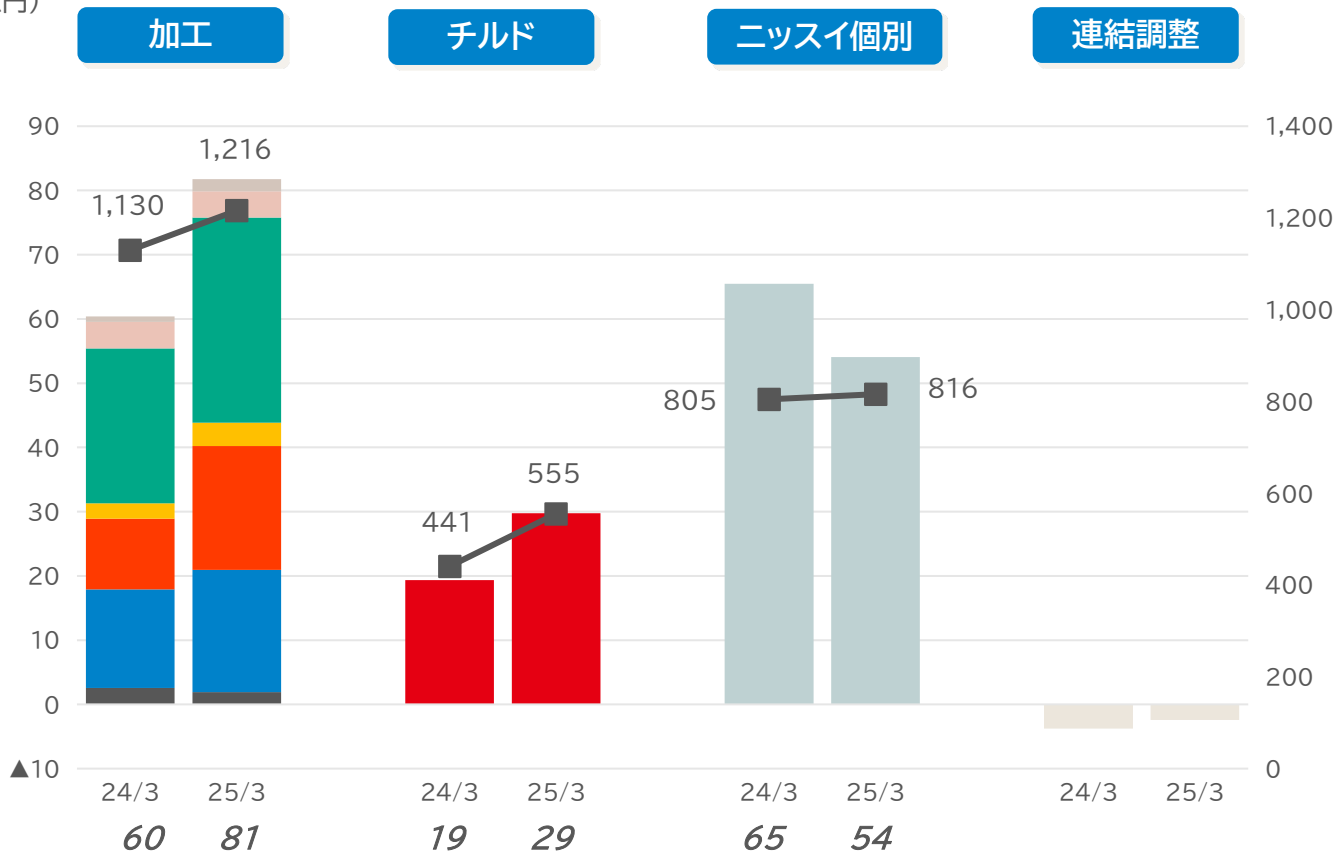
# 2025年3月期中間期 水産事業 売上高・営業利益(前年同期比)

(単位:億円)



# 2025年3月期中間期 食品事業 売上高・営業利益(前年同期比)

(単位:億円)



営業利益(棒グラフ)

売上高(折れ線グラフ)

※棚卸資産の未実現利益、のれん償却等含む

※グラフ下部の斜体数値は機能別営業利益合計数値



まだ見ぬ、食の力を。